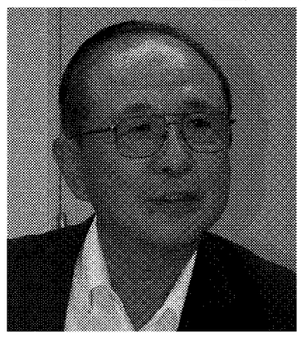
安心を運び、社会を支える

（社）全日本トラック協会
（社）福岡県トラック協会

福岡県トラック協会 原 重則 会長



地域への社会的使命果たす

トラック運送業界は厳しい経営環境が続くが、東日本大震災で重要性は再認識された。福岡県トラック協会の原重則会長に取り組みを聞いた。

「このたびの東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げる。

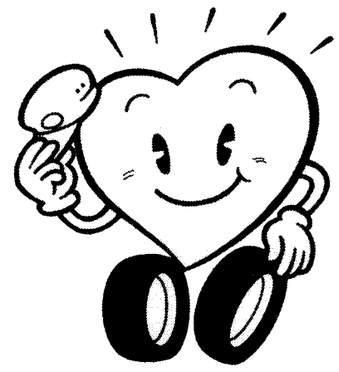
トラック運送事業者にとって、災害時の支援物資輸送も社会的使命の一つだ。そのためできる限りの支援を行いたい。5月に完成した『筑後緊急物資輸送センター』は、輸送センターの機能に加えて地域住民の緊急避難場所として活用が可能な、トラック協会としては全国初の施設だ。

今後は筑豊、北九州、福岡にも設置を予定している。災害対策基本法や国民保護法に基づく指定地方公共機関として、福岡県地域防災計画、福岡県国民保護計画に定める緊急輸送の要請に迅速・的確に対応したい。

輸送は完全な機械化ができない。どこかに必ず人が関わっている。その面でもトラック輸送の重要性をアピールしながら、地域や社会への貢献を目指していきたい」

10月9日はトラックの日

日常生活の中でトラックを見ない日はない。大型トレーラーから小型の宅配便まで大きさはさまざまだが、そのどれもが生活や産業活動に密接した「モノ」を運んでいる。社会機能の重要な一部となっている一方で、じっくりとその役割を考える機会は多くない。10月9日の「トラックの日」にあわせて、その重要性を再認識したい。



（社）福岡県トラック協会キャラクター
ハーティくん

運送事業の健全発展に力
全日本トラック協会

トラック輸送は長距離から短距離までを網羅し、産業のベースにあると言ってよい。輸送量ベースでは全体の9割以上を占める。その業界を束ねるのが、社団法人全日本トラック協会（東京都新宿区、星野良三会長、03・5323・7109）だ。1948年2月設立、全国47の都道府県トラック協会を正会員として抱える。

■震災で強さ発揮

輸送機関別の輸送量（08年度）はトラック輸送が47億1800万トンを担っており、分担率は91・7％を占める。国内物流はトラック輸送を中心に展開されており、日常生活に欠かせない輸送機関であることがわかる。強みは道があれば物資を届けられるという機動力にある。

東日本大震災でもその強さを発揮した。同協会は国土交通省の依頼を受け、会員の協力のもとで救援物資輸送の配車を手配した。パン、おにぎりなどの食料や、毛布、カイロなどの救援物資を次々と避難場所など被災者のもとへ届けた。約1カ月で延べ2032地点に食料約190万食、飲料水約460万本などを運び、トラック輸送の底力を示した。

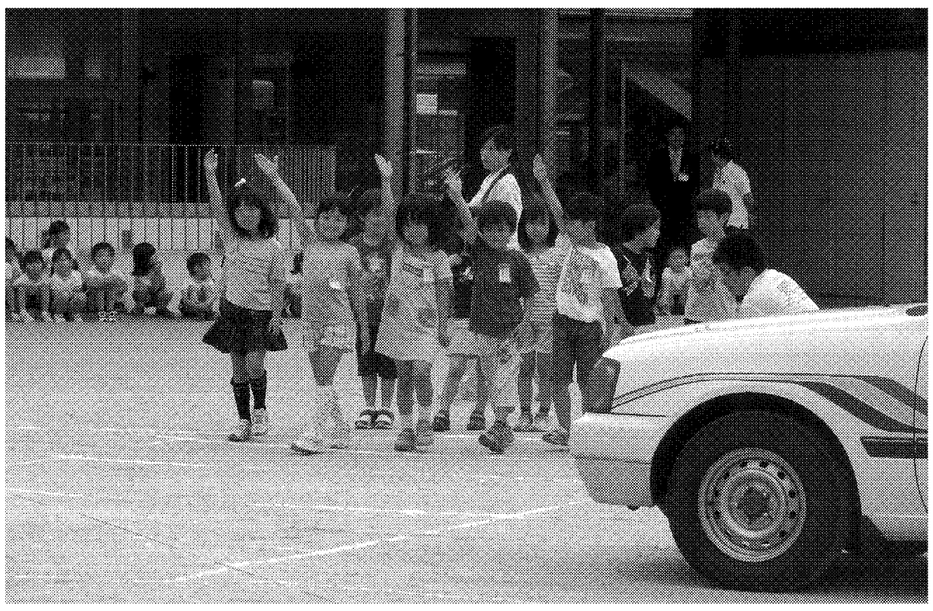
だが、業界を取り巻く環境は決して楽観視できない。長引く不況で輸送需要が伸び悩む一方で、自動車関係諸税や高速道路料金などの負担は重い。また原油価格の高止まりによる燃料コストも事業者には負担が大きい。運送事業者の9割は中小企業で、若年労働者の確保も課題だ。

■ICT活用で荷主に応える

製造業を中心とした荷主企業は、間接コスト削減の目的で調達から在庫・納品までの一貫化に動いている。トラック運送業界でも荷主企業のニーズに応えるため、共同運行や共同集配など物流効率化に取り組んでいる。

また情報通信技術（ICT）を活用した取り組みも活発化している。車両の積載率や運行効率を向上させる、求荷求車情報ネットワークシステム「WebKIT」がその一つ。同協会が開発したシステムで、輸送需要の繁閑格差や地域格差解消に効果を発揮している。

このほか地球環境保護に向けた取り組みや、ドライバーの労働環境改善に力を注ぐ。また厳しい経営環境のなかで、トラック運送事業の健全な発展を目指して、業界団体として声を上げる。



事故減少は運送事業者にとって命題（小学生交通安全教室）

機動力強みに救援物資届ける

地域社会との共生目指す
福岡県トラック協会

社団法人福岡県トラック協会（福岡市博多区、原重則会長、092・451・7878）は、48年に設立。地域経済や社会に寄与し、社会との共生を目指したさまざまな取り組みを行っている。

■安全を最優先

原会長は「環境と安全はトラック輸送にとって切り離せない」と力を込める。特に安全は事業の基本でもあり、最優先事項の一つだ。交通事故は荷主に対してのみならず、社会にも影響を与える。そのため同協会では、県内の営業用トラック約5万3000台を運転するプロドライバーに対して、専門の研修施設で安全運転研修を実施している。安全運転に必要な知識・技能向上を目的とする。

また地域ごとに地元警察署や関係機関の協力を得ながら、傘下会員事業所の運行管理者・運転者を対象に安全運転講習会を開いている。

社会貢献、社会との共生の面でも、子どもと高齢者の交通事故減少は命題。小学生交通安全教室、シルバー・セーフティー・ドライビングスクールを行っている。運送事業は公道を利用するため、交通安全活動は生活者からの信頼を得る上で不可欠だ。

生活や産業活動に密着

■環境対策に力

近年は二酸化炭素（CO_2）など温室効果ガスに対する見方が厳しい。事業活動にCO_2発生がともなうトラック運送業界では、地球環境の保全のため、環境問題対策にも力を入れる。

CO_2発生を少しでも抑制するため、駐停車中はこまめにエンジンを切る。また長距離運行するドライバーが車内で休憩や仮眠を取る際にも、エンジン停止中でも使用可能な車載用機器である、蓄熱式マットや蓄冷式クーラーの導入も促進する。

加えて省エネ運転などのエコドライブは、排ガス低減や運送コスト削減にもつながる取り組みだ。急発進、急停車をなくすことでエネルギーが効率化する。また事故減少にもつながるため非常に効果が高い。同協会では普及促進のため、運転者や管理者を対象とした運転講習会を実施している。また圧縮天然ガス（CNG）車やハイブリッド車など、低公害車を採用する動きには、事業者に助成している。

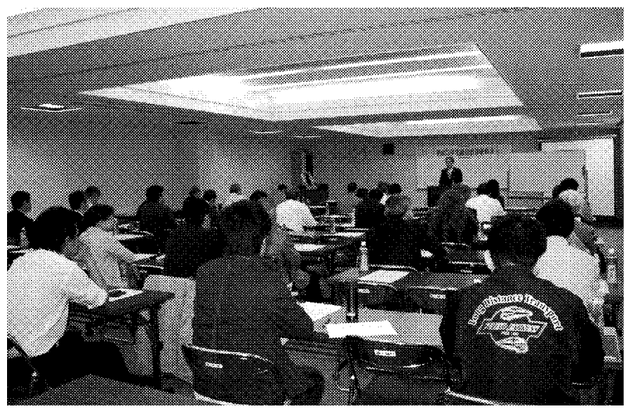
安全と環境保全は使命

■災害対応を強化

東日本大震災で重要度が再認識された、防災面でも活動は活発だ。災害対策基本法に基づいた福岡県指定地方公共機関として、年2回の県総合防災訓練や石油コンビナート訓練に参加して関係機関との連携強化を図る。05年の福岡県西方沖地震では、会員事業者が仮設住宅への引っ越し輸送など被災者支援活動を行った。

また11年5月には福岡県筑後市に「筑後緊急物資輸送センター」が完成。研修室や倉庫、緊急ヘリポートとしても利用可能な大型駐車場などを備え、災害時の緊急輸送拠点、緊急物資の保管、地域住民の避難に対応する。全国のトラック協会の施設としては初めてで、今後さらに建設を進めて、県内4カ所体制の構築を目指す。

トラック輸送と生活者との接点は多い。一方で水道や電気のようにインフラ化しており、普段あまり意識することはない。だが災害時のような、いざという時にもインフラがライフラインとして機能するためには、日常的に意識して見ていくことが必要になる。原会長は「モノは届かなければ意味がない。その多くを届けているのがトラックだ」と、語る。



厳しい経営環境を乗り切る（経営改善研修会）

植樹活動で森林を保護育成（「トラックの森」事業）

4t車44台の駐車スペース、緊急物資の保管庫、地域住民の避難施設を備えた救援物資輸送拠点が完成！

福岡県トラック協会
筑後緊急物資輸送センター

建築概要	敷地面積	4,893.16㎡（1,482坪）
	用途地域	第二種住居地域
	規模・構造	2階建、高さ10.7m
		1階床面積　522.45㎡（158.04坪）
		2階床面積　508.94㎡（153.95坪）
		延べ床面積　1031.39㎡（311.99坪）
		鉄筋コンクリートラーメン構造
		避難施設のため耐震強度1.25倍
		太陽光発電パネル20Kw
		非常用発電機高圧発電125kVA

福岡県トラック協会　検索

筑後緊急物資輸送センター
〒833-0005 福岡県筑後市大字長浜2327-1　TEL（0942）52-3115

社団法人 福岡県トラック協会
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-18-8　TEL（092）451-7878　FAX（092）472-6439
ホームページ　http://www.hearty.or.jp